

おほけなく我もたもとをぬらす哉かさきの山の松の下つゆ

石井通庸

かくれゆく君を思へば出てこし龍のこまさへうらめしきかな

伊達千廣

吉野山しはしは花にまかひつるみさをも消し峯のしらくも

冷泉古風

月かけの鷹の巢山に入しより雲井はくらくなりにけるかな

加藤千浪

いさめことかひもあらしと龍の馬のうまやはなれて立さりにけん

福羽美静

懸るべき頼みなき世と藤かづら深山の奥に根を移しけむ

直務

名和長年朝臣

焼すてし家の煙も一すちに雲井遠くやなひきはてけん

寛蔭

にこりなき水となりつゝ君をしもやすきにおける舟の上のやま

加藤千浪

すめらきの御舟の上の山おろしみやこへ歸るおひてなりけり

井上文雄

宮澤大道

家をやきし煙は君か世の中になてしいさをのはしめなりけり

伊達千廣

猶たのむそのはゝき木の一木さへかれゆく世とはなりにける哉

小野務

ちりのこる御舟の上の山ざくらおもひ定めてまつあらしかな

村山守雄

天の下の臣のしるへど先立て真帆かゝけたる舟の上の山

飯田年平

荒き風誰ふせげとて枯にけむ今は一木の陰にやはあらぬ

加藤千浪

大納言師賢卿

木かくれし君かもぬげのから錦こゝろにさへもきたるきみかな

黒川真頼

比叡おろし小籬をまかすはひと山の人のこゝろはうこかさらまし

近藤清石

思ふことあり明の月の言の葉にたもとをあらふ志賀のうら浪

佐々豊水

志賀の浦なみをてらしゝ在明の月より高き名こそかゝやけ

高崎正風

滋賀の浦の月に啼つる大君のころもかりがねいまも身にしむ

北畠顯家卿

あらし風ふせきかねつゝあへなくも安部野のつゆと消し君かも

加藤千浪

うき雲をしのくいさをは武隈のひと木も三木におどらさりけり

真中

三吉野の花の光と添ふべきを阿倍野の露と君しきえずば

伴林光平

菊池武時朝臣

同

露霜を凌ぐと見えし白菊もあはれ雪には下枯れてけり

小出 粲

君かため思ふ心の一すちの征矢のさきにはたつ袖もなし

伴林光平

菊池武光朝臣

一たびは北山おろし吹たえて都にかをる菊の一もと

同

末遠くかをると見えし菊すらも北吹く風にくだけゆく世や

寛 蔭

菊池武朝朝臣

あはれその心つくしに秋経てもなほ霜かれぬ菊の一もと

加藤千浪

准后親房卿

五十鈴川なかれの末のにこらぬはくみしる君のあはれはなりけり

伊達千廣

村上義光朝臣

さくら花散へき時とちりにけんいさをは高しみよしの、山

加藤千浪

君かためちるやよし野の花やぐらたかきその名はかくれさりけり

小野 務

三よし野の竹の園生の花櫻あなこゝろよのちりのまかひや

莊 一

吉野山花にまかひし白雲はきえてのちこそ世にかをりけれ

明 言

襲風に真名子を備へ大君の真坂に散れり三よし野の花

小野利教

村上義隆主

よし野山竹のそのふの若櫻竹のはやしにあたらちりけり

静間三積

和田正季主

ちかひけり黄泉雷となりてたに君に弓ひくあたをうたんと

同

和田正武主

楠のをれし木末も石とさへ化りてくちせぬこゝろかたさや

加藤千浪

新田義興朝臣

おもひきや矢口のわたし舟人かたはかりことに乗らんものとは

伴林光平

小山田高家主

しげかりし君の恵を數へつゝ征矢のかぎりやもりて負けん

南朝忠臣碑文集

香雪山房藏版

青麥のかりのなさを負征矢の身にうけてこそなき數にいれ

小野利教

跋

建武中興以後。海内沸亂。不戢于戈者五十七年矣。此間  
姦賊相踵。肆志逞慾。以害邦家毒民人者。不可勝舉也。  
讀南朝之史者。誰有不憤慨者耶。青嵩辻君。予同郷之士。  
而以氣節相尙。今春囑予以南朝忠臣碑文集編著之事焉。  
予也學問空疎。於文最拙。辭讓再三。君強不聽。遂應之  
需矣。今時史學之勃興。殆達其極。而異說亦並起。甲是  
乙非。駁正無已。然而稱其史家者。徒衒自己該博。而不  
顧世教如何者。往々有之。是蓋捨本以趨末者耳。眞可浩  
歎也。熟察方今之情況。國人漸溺於西化浸潤之學。而迷  
於科學物質之說。以滔々箝制於實利者。比々皆是也。忠

孝之教。彝倫之道。於是乎日頹廢矣。古今學變之急劇。莫甚於此時也。迂君之有此舉。深可稱贊也。是予所以不辭拙陋而敢應其請也。乃記以爲跋。

大正六年丁巳秋九月

浪華隻眼居士 小野利教誌

而以疎濬時向。今春撰予以南時忠臣碑文集。讀之。感其志。以書於案。其人。不可無也。其方中興。以。新內。不。予。其。

大正十一年十一月二十一日印刷  
大正十一年十一月二十五日發行

非賣品

神戶市三宮町一丁目三百二十番屋敷

編輯兼發行人 辻 仁三

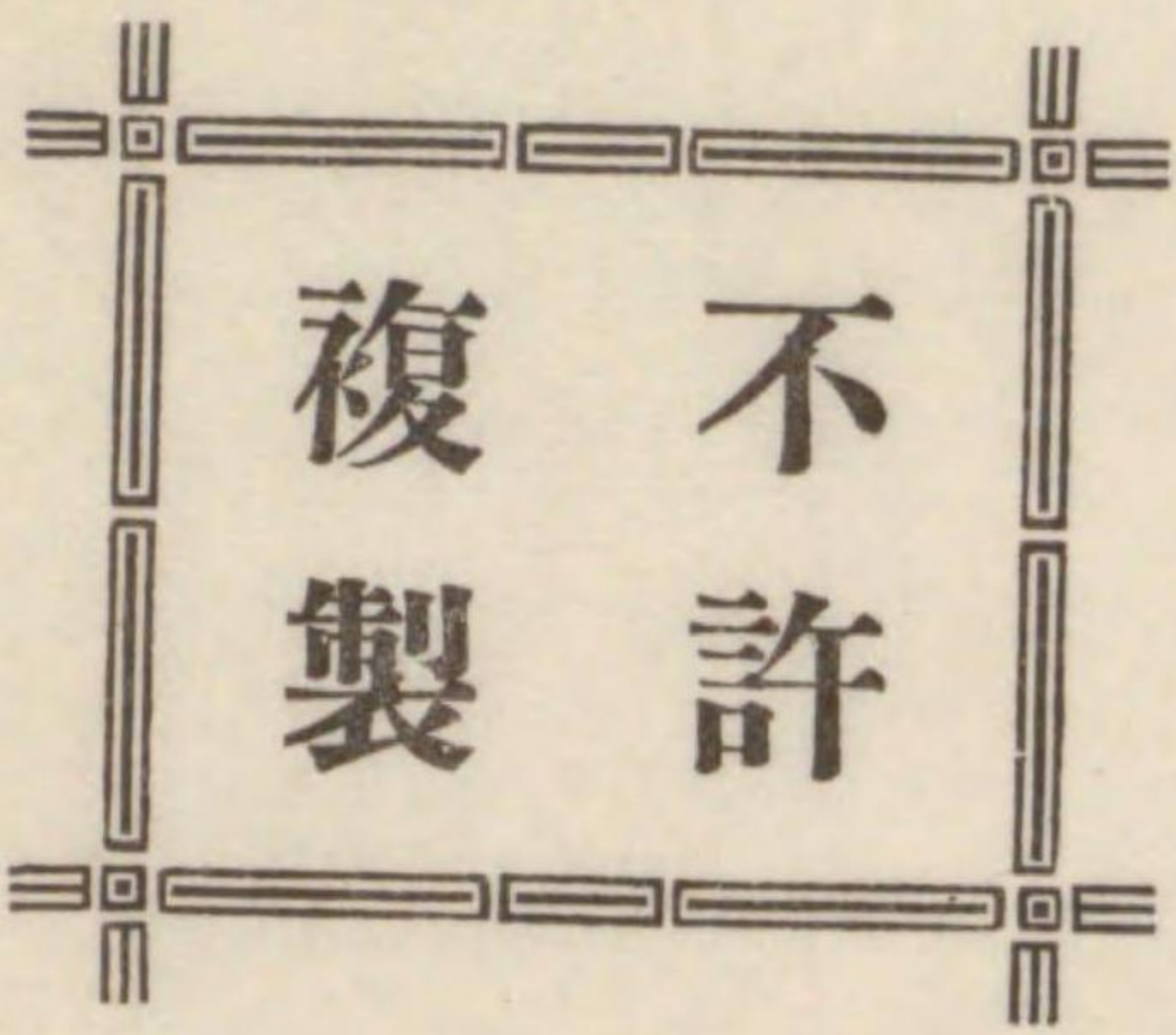
神戶市三宮町一丁目三百二十番屋敷

印刷人 辻 仁三郎

神戶市三宮町一丁目三百二十番屋敷

印刷所 明 輝 社

電話三宮五五〇番



162  
59

南朝忠臣碑文集

南朝忠臣碑文集

香雪山山房藏版

香雪山山房藏版

其在此時也 比君之有此舉 深可稱賀也 是予所以不  
辭推隨而致慶其贈也 乃記以爲 聯 攝  
大正六年丁巳秋九月 轉刊市三宮四一丁目三百二十番風澤

不 藉  
不 藉

浪華堂眼居士 小野利教 謹  
同 贈 人 長 寸 三 浪

轉刊市三宮四一丁目三百二十番風澤

轉刊市三宮四一丁目三百二十番風澤

大五十一甲十一日二十五日發計  
大五十一甲十一日二十五日發計

